

全国で 戦争法案阻む 子らのために

非戦の国を

終戦から70年。全国各地では15日、「戦争する国づくり許さない」「憲法守って平和な世界を」と、多彩な集いや宣伝行動などが行われました。

雨の中を力強く

青森

青森市の駅前公園では、青森県・市町村長九条の会、県九条の会や憲法ネットあおもり、青森ベントラフ、日本共産党、社民党など13団体共催の「戦争法案『廃案』！青森平和集会」が開かれました。

250余人が参加、パレードでは「憲法守れ、9条守れ」「安倍政治は許さない」と力強く声をあげました。強弱を繰り返す雨が降る不安定な天候の中で行われた集会では、県九条の会共同代表の

金澤茂氏はじめ、共催団体の代表がリレートーク。歴史をねじ曲げる戦後70年「安倍談話」を批判し、不戦の決意を新たに「戦争法案廃案、安倍政権退陣へ追い込もう」と呼びかけました。

「九条かながわの会」の宣伝で藤原義仁弁護士が「戦争法案は危険性や違憲性がわかるほど反対世論がまきおこり、国民の7割が今国会での成立に反対しています。声をあげて廃案にしましょう」と訴えました。

横浜

横浜市中区の桜木町駅前では「戦争法案廃案などを訴える「戦後70年・終戦記念日ヨコハマ8・15共同アクション」。憲法改題反対・神奈川県共同セクターが呼びかけたものです。



訴える藤原氏（中央）と署名者（15日、桜木町駅前）

「戦後70年・終戦記念日ヨコハマ8・15共同アクション」の会場で、藤原氏（中央）と署名者（15日、桜木町駅前）が訴えている様子。

梨原水協と県平和委員会が毎年開いているもので、40人が参加。県平和委員会の桜井真作代表理事が講演し、ボツダム宣言や「終戦の詔書」（玉音放送）の全文を詳しく読み解き、戦後の国体維持を願って終戦を遅らせた天皇や政府の動きを紹介。「終戦の詔書は、侵略戦争の実体を隠す内容であり、国体維持で天皇制の継続を欲する宣言ともなっている」と指摘しました。

憲法の根底崩す

JCCJ

日本ジャーナリスト会議（JCCJ）は8月集会「市民とジャーナリストの集い」を東京都内で開き、市民やメディア関係者ら約200人が参加しました。中村梧郎代表委員（フットジャーナリスト）が主催者あいさつで戦争法案を厳しく批判。「アメリカの要請で自衛隊が出て行けば必ず犠牲者が出る。法案を必ずつぶし、安倍首相を必ず退陣に追い込もう」と呼びかけました。

氏が記念講演。戦争法案を強行しようとする安倍政権の姿勢を「戦後、嘗々と築いてきた平和憲法のもとにおける平和主義の根底をくずしている」「憲法は国民を守るために権力をしぼるという、法治国家の立憲主義の大事さがわかっていない」と指摘しました。

JCCJは同日、「戦後70年8月声明」を発表。二度と戦争のために人をとらえない、マイクを握らない」という立場で「安倍政権の襲撃に立ち向かう」決意を表明しました。

戦争法案「廃案」青森平和集会

「戦争法案廃案」「安倍政権退陣」を求め、市内をパレードする参加者（最前列右から2人目は高橋衆院議員）＝15日、青森市内

3党合同で宣伝

秋田

秋田市のJR秋田駅西口前では、日本共産党秋田県委員会、民主党秋田県総支部連合会、社会民主党秋田県連合の3党が戦争法案反対の合同街頭宣伝を行いました。これは県委員会が両党に戦争法案廃案の一点共闘を呼びかけ実現したもので、秋田県段階では初。日本共産

9条を守り抜く

甲府

甲府市内では「8・15を考える県民のつどい」が開かれ、アピール「歴史逆行・違憲立法の戦争法案を廃案に追い込もう」を採択しました。つどいは、山

「9条を守り抜く」というスローガンで、多くの市民が参加し、安倍首相を退陣に追い込もうと訴えました。

「9条を守り抜く」というスローガンで、多くの市民が参加し、安倍首相を退陣に追い込もうと訴えました。

「9条を守り抜く」というスローガンで、多くの市民が参加し、安倍首相を退陣に追い込もうと訴えました。

8/16 第2頁